

『湖の上を歩かれたイエス』

'21/02/14

聖書箇所: マルコの福音書 6章 45-56節 (新約 p.77-)

皆さんは、先週のメッセージを聞いてくださったでしょうか?…先週の礼拝で、私たちは、マルコ伝 6章に記されてある「5000人の給食」というエピソードから、イエス様がなしてくださった奇蹟と、実は、それが、「12弟子たちに対する“大切なレッスン”であった」ということを学びました。

命題: イエス様が12弟子たちに期待しておられたことは?

でも、実は、12弟子たちに対するレッスンは、それだけではありませんでした。今日、私たちがこれから学んでいくエピソードも、実は、イエス様が弟子たちに大切なことを教えるために、特別に、イエス様が用意された機会だったのです。

…そういったこともあって、今日のメッセージの命題やポイントは、ほぼ先週と同じような構成になっています。今日、私たちは、イエス様が弟子たちに与えてくださった大切なレッスンを通して、私たちもまた、当時の弟子たちが学んだであろう、大切な教訓を皆さんと一緒に学んでいきたいと思えます。そうすることによって、私たちも、今日から、ますます、神様に喜ばれる選択をなしていくことによって…、私たちがさらなる平安と神様からの祝福に満ちた人生を歩んでいけることを願います。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばであるマルコ伝 6:45-56をお開きくださいますでしょうか?

I・自分たちの 限界を知る! (45-50節)

まず、最初に、今回のみことばから私たちが学ぶべきことは、先週も学んだことですが、私たちに、できないことがたくさんある! 私たちは、もっと自分たちの“限界”というものを知らなければならない! ということを、一緒に確認していきましょう。どうぞ、今回のみことばの内、45-50節までをご覧ください。そこには、このように記されています。

- 45 それからすぐに、イエスは弟子たちを強いて舟に乗り込ませ、先に向こう岸のベツサイダに行かせ、ご自分は、その間に群衆を解散させておられた。
- 46 それから、群衆に別れ、祈るために、そこを去って山のほうに向かわれた。
- 47 夕方になったころ、舟は湖の真ん中に出ており、イエスだけが陸地におられた。
- 48 イエスは、弟子たちが、向かい風のために漕ぎあぐねているのをご覧になり、夜中の三時ごろ、湖の上を歩いて、彼らに近づいて行かれたが、そのままそばを通り過ぎようとおつもりであった。
- 49 しかし、弟子たちは、イエスが湖の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、叫び声をあげた。
- 50 というのは、みなイエスを見ておびえてしまったからである。しかし、イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。

● イエス様がされた 行動の意図 とは?

今読んだみことばをご覧くださいと、今回のこの状況が、前回の「5000人の給食」と同じく、イエス様によって、“意図的に作られた状況”であるということが分かります。…だって、そうじゃありません? このみことばをご覧くださいと、この時、イエス様は、弟子たちのことを、『強いて…』舟に乗り込ませたわけでしょう?…ここで『強いて』と訳されていますのは、原語のギリシア語を観察してみると、「必要にする、強いる、強制する、無理に～させる、…」という意味の動詞(ἀναγκάζω)が使われてあって、他者の意に反して、何かをさせる場合に使われるような言葉なので、実際、新改訳2017では、イエス様が、弟子たちのことを、『無理やり舟に乗り込ませ(た)…』と表現されています。

実は、この部分に関する詳しい説明は、ヨハネ伝に記されています。ちょうど、「5000人の給食」という奇蹟が起こった後のことについて、使徒ヨハネは、こう書き残してくれています。ヨハネ 6:14-15、『14人々は、イエスのなさったしるしを見て、「まことに、この方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。15そこで、イエスは、人々が自分を王とするために、むりやり連れて行こうとしているのを知って、ただひとり、また山に退かれた。』って…。

⇒皆さん、分かってくださいますか?…この時、イエス様の周りに居て、その奇蹟を目の当たりにした群衆たちはイエス様のことを、「このお方こそ、あの約束されていた預言者だ!」と言って、イエス様のことを自分たちの王様にしようと、無理矢理、連れて行こうとした! というのです。恐らく、そういった状況だったからでしょう…。イエス様は、半ば強制的に、弟子たちのことを追いやって、今から見ていくような状況を作られたわけなのです。…その間、イエス様は何をされたでしょう? ⇒46節にあるように、群衆と別れ、祈っておられたのです。

以前、マルコ伝1章のみことばを学んだ時にも、これと同じような状況を見ました…。このように、イエス様は、祈りという、父なる神様との交わりを非常に大切にしておられたということも、時々、私たちが見ることが出来ます…。

ま、それはさておいて、まず、私たちがしっかりと理解しておきたいことは、今回のこの状況を、イエス様は、意図的に…、つまり、この後に何が起こるのか? ということを、すべてご存知の上で、あえて、イエス様は、こういった環境を作られた! ということです。

だって、皆さんも思われませんか?…私たちが先週に学んだ「5000人の給食」ですが、あの時にしても、イエス様が、わざわざ、神様の奇蹟を起こして、5000人以上のお腹を満たしてくださいましたけれども、果たして、イエス様が、そのようなことをする“必要性”ってありましたか?…だって、弟子たちが言ったように、「もう、日も暮れてきたから、皆さん、帰ってください!」で済む話じゃないですか? 違いますか?

もしも、イエス様が奇蹟を起こされなくても、誰も何も困らなかったのです! そうでしょ!…でも、イエス様は、敢えて、『あなたがたで、あの人たちに何か食べる物を上げなさい。』(マルコ 6:37)ということをおっしゃられて、そういった状況を、わざわざ、イエス様の方で作られたのです。そうでしょ!

今回の状況も、それとよく似ています。…と言いますのも、この時の状況も、イエス様が、わざわざ、こういった環境を作られたということもありますし…、この時、イエス様が、弟子たちの前に、わざわざ、真夜中過ぎに現われてくださらなくても、弟子たちだって、特に、困らなかったでしょ?…せいぜい、「いやー、昨日は向かい風で大変だったなあ」という程度です。そうでしょ?

でも、だからこそ! 私たちは、この時のイエス様のお気持ちと言うか…、「イエス様が、どんな思いで、何を目的に、こんな状況を弟子たちに与えられたのか?」ということを考えることが大事なのです。

● 自分たちには、導き手が必要である!

どうぞ、皆さん…。今度は、この時、具体的に、どういったことが起こったのか? イエス様と弟子たちとの間に、どういった会話が合ったのか? もちろん、ここマルコ伝の記事だけでも十分なのですが、もう少し詳しく、そういったことを知るために、このみことばの平行記事であるマタイ14章をお開きくださいますか? その、マタイ14:22-34をご覧ください。ちょっと長いのですが、そこには、こう記されています。『22それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗り込ませて、自分より先に向こう岸へ行かせ、その間に群衆を帰してしまわれた。23群衆を帰したあとで、祈るために、ひとりで山に登られた。夕方になったが、まだそこに、ひとりでおられた。24しかし、舟は、陸からもう何キロメートルも離れていたが、風が向かい風なので、波に悩まされていた。25すると、夜中の三時ごろ、イエスは湖の上を歩いて、彼らのところに行かれた。』

26 弟子たちは、イエスが湖の上を歩いておられるのを見て、「あれは幽霊だ」と言って、おびえてしまい、恐ろしさのあまり、叫び声を上げた。27 しかし、イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。28 すると、ペテロが答えて言った。「主よ。もし、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてこまど来い、とお命じになってください。」29 イエスは「来なさい」と言われた。そこで、ペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスのほうに行った。30 ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、「主よ。助けてください」と言った。31 そこで、イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」32 そして、ふたりが舟に乗り移ると、風がやんだ。33 そこで、舟の中にいた者たちは、イエスを拝んで、「確かにあなたは神の子です」と言った。34 彼らは湖を渡ってゲネサレの地に着いた。』

⇒いかがですか？全く同じエピソードとは言え、マタイ伝のみことばの方がより詳しく書かれてあるため…、より分かりやすくありません？…まあ、それでも、マタイもマルコも教えてくれているように、やはり、ここでも、イエス様が、何か神の奇蹟を行なわないといけなかった、“特段の必要性は無かった”ように思われます。しかし、何度も言うように、弟子たちに、このような状況が…、このようなレッスンが必要であったのです！

この時、弟子たちは、湖に吹いていた向かい風のため、真夜中を過ぎても、ベツサイダの町に着けず、難儀しておりました。今日のみことばには、『夜中の三時ごろ』とありますので、恐らく、弟子たちは、途中、交替や休憩をしたとしても、約9時間も舟を漕ぎ続けていたのです。もうヘトヘトだったでしょう…。何度も言いますように、そんな状況をイエス様は、敢えて、作られたのです。そうして、そこに、イエス様が弟子たちの前に現われるわけです。…そんな真夜中過ぎ、湖の上に、誰かが居るように感じて、弟子たちは「幽霊だ！」と思ってしまったのも無理ありません。

でも、その時、聞き慣れたイエス様の声で、『しっかりしなさい！わたしだ！恐れることはない！』という声が聞こえるわけです。すると、弟子のペテロが、28 節、『主よ。もし、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてこまど来い、とお命じになってください。』というわけです。そうして、ペテロは舟から出て、イエス様の方へと歩き出すわけですが…、最初は、まあまあ順調にいらしていたのに、しばらくすると、風を見て、こわくなって、沈みそうになるわけです。

そうして、その時、イエス様は、何とおっしゃいました？⇒31 節、『信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。』と言われたのです。そうして、32 節、イエス様とペテロが舟に移った瞬間、風が止んだというのです。そして、33 節、『そこで、舟の中にいた者たちは、イエスを拝んで、「確かにあなたは神の子です」と言った。』という結論に至るわけです。

皆さん、分かってくださいますよね？…イエス様は、こういったことを予測して、わざわざ、こういった状況を作られたはずなのです。…つまり、弟子たちの信仰というものが、イエス様のおっしゃる通り、「弱かったから」です。そういったことを、イエス様は、弟子たちに気付かせるために、こういったことをなされたのです！

だって、皆さん、そうでしょ？…この少し前、「5000 人の給食」の時も、弟子たちは途方に暮れてしまっていたのです。「どうしよう？どうやって、この状況を乗り越えようか？」って…。でも、彼らは、目の前にいるイエス様に気付かなかったのです！目の前におられるイエス様に助けてもらえらるとは、気付かなかったのです。そういったところが、実は、彼らの問題であり…、彼らの信仰が薄いとイエス様がおっしゃっておられる点なのです。

今回の場合もそうです！恐らく、この時、弟子たちは真夜中も過ぎてしまったことで、湖の上で、必要以上にうろたえてしまっていたのでしょう…。でも、そんなこと、大した問題じゃないのです！…だって、弟子たちのすぐ近くには、神であられるイエス様がおられて…、そのイエス様が弟子たちのことを、目的をもって選び…、目的をもって訓練しておられたわけでしょ！…そのことをちゃんと分かっていたら、彼ら弟子たちは何物をも恐れる必要は無かったのです！…そうじゃありません？

前回の礼拝で、私たちは、マルコ 6:34 から、どんなことを学びました？⇒『イエスは、舟から上がられると、多くの群衆をご覧になった。そして彼らが羊飼いのいない羊のようであるのを深くあわれみ…』とあるように、この時、イエス様は、多くの群衆たちが、本来は居なければならぬ、彼らの導き手が居ないことを見て、その群衆たちのことを憐れまれたわけでしょ？…でも、弟子たちはどうですか？…弟子たちには、イエス・キリストという、最高の導き手が居たのです！そうでしょ？…でも、悲しいことに、弟子たちは、当時、「自分たちには、イエス・キリストという最高の導き手が居てくださっている！」ということに気付かなかったのです。

いえ…、彼ら弟子たちだけではありません。ひょっとしたら、私たちクリスチャンもまた、彼らと同じような弱さや問題を持っているのではないのでしょうか？…私たちもまた、全知全能の神であられるイエス・キリストを信じる信仰を持っていながら、そのイエス様に頼って、そのイエス様から力を受けて歩いていく！ということが、実は、なかなか、できていないのではないのでしょうか？…いかがですか？

Ⅱ・イエス様には、不可能が無い！(51-52 節)

どうぞ、今度はそういったことを見ていくために、今日のみことばの 51-52 節をご覧ください。そのみことばは、先週と同じく、イエス様には、“不可能”が無いのだ！ということをお教えています。先週も言いましたように、今、私たちが抱えている様々な問題…、今後、私たちが抱えていくであろう、どうしようもないような、ありとあらゆる困難を、イエス・キリストは解決できる！ということをお、弟子たちに気付かせるために、イエス様は、敢えて、こういった機会を作ってくださいましたのです。どうぞ、今日のみことばの内、51-52 節をご覧ください。

51 そして舟に乗り込まれると、風がやんだ。彼らの心中の驚きは非常なものであった。

52 というのは、彼らはまだパンのことから悟るところがなく、その心は堅く閉じていたからである。

●この時に、イエス様が起こされた 奇蹟 とは？

いかがですか？ここ 51 節の部分は、先程見たマタイ伝にも記されておりましたが、ここマルコ伝では、短く、簡単に説明されておられます。でも、言っていることは同じです。湖の上を歩かれていたイエス様が、舟の上に乗らされた途端、風が止んだのです。

先週は、この 2 番目のポイントで、イエス様が起こしてくださった奇蹟は、正真正銘、「神の奇蹟」であったという話をさせていただきました。皆さん、覚えてくださっていますか？先週は、この 2 番目のポイントで、ある有名な聖書注解者のコメントを紹介させていただきました。その方のコメントは、簡単に言うと、こんな理解でした…、「この時、イエス様が起こされた 5000 人の給食という出来事は、神であるイエス様が超自然的なことをなしてくださったのではなく、イエス様が、人々の心を自分のことしか顧みようとしない自己中心的なものから、他の人を顧みするような慈善的なものへ変えてくださった…。だから、そこに集まっていた者たちが、“自分たちの持っていた食べ物”を差し出して、皆が満腹できたのである…」そんな感じでした。

実は、今回のみことばも、その同じ聖書注解者のコメントを読みました。すると、その注解者は、ギリシャ語を観察して、これらのみことばは、「湖の上を歩いた…」とも、「湖の岸辺を歩き回られた…」とも訳することができるとして、そのどちらを採用するかは、「読む人の自由である」という風に説明されておりました！…。(笑)

↑「マタイ福音書く下」ヨルダン社：ウィリアム・パークレー著：松村あき子訳 p.118

でも、皆さん、どう思われます？…果たして、そんなことで、当時の群衆たちが、イエス様のなされたことを見て、「このお方こそ、約束の預言者だ！」なんて騒ぎ立てて、自分たちの王にしようとするのでしょうか？また、イエス様の弟子たちにしたって、この時にイエス様のされたことを見て、「あなたこそ、神の子です！」と言って、イエス様のことを拝んだわけでしょ！果たして、真唯一の神様にしか、礼拝を捧げないような頑固なユダヤ人たちが、大勢の群衆からパンを差し出さされただけの…、あるいは、湖の岸辺の近くを歩いていて…、まるで、湖の水の上を歩かれたように“見えた”だけの、イエス様のことを、「あなたこそ、神の子です！」と言って、イエス様のことを拝むでしょうか！

ちょっと話が脱線するようですが、多分、このことは、私だけではないと思います。…実は、私の知っているクリスチャンの多くは、こんな使い分けをしています。マタイ 13:58、日本語の新改訳聖書では、**こんな漢字が使われています、『そして、イエスは、彼らの不信仰のゆえに、そこでは多くの“奇蹟”をなさなかった。』**って…。国語辞典では、こういった使い分けについて説明されてないのですが、私を含む多くのクリスチャンたちは、こっちの漢字、つまり、新改訳の第3版で使われている方の(難しい方の?)漢字で表現されてある「奇蹟」は、「神の超自然的な働きによって起こる不思議な現象」のことを言います。

それに対して、簡単な字の方の「奇跡」、一般的によく使われる方の「奇跡」は、「常識で考えては起こりえない(ような)、不思議な出来事・現象」のことを言って、これは、私の場合ですけれども…、「単なる偶然や、神様が直接的には関わっておられない? ような出来事」を指す場合に使ったりします。しかし、実は、新改訳聖書の第3版では、すべて、難しい方の「奇蹟」の表記が使われているのですが、最新の改訂版 2017 では、すべて、簡単な方の「奇跡」という表記が使われています。

●多くのクリスチャンたちに共通する 問題 とは？

ま、少々話が脱線しましたが、今日のみことばの 52 節は、**こんなことを教えてくれています、『というのは、彼らはまだパンのことから悟るところがなく、その心は堅く閉じていたからである。』**って…。ここで、私たちが考えたいことは、私たち…、多くのクリスチャンたちに共通する“問題”について、です。…確かに、この時点の 12 弟子たちには、まだまだ、信仰が薄い部分がありました…。しかし、そういったような問題は、彼ら弟子たちだけの問題&弱さではありません！

…と言いますのも、**私や皆さんだって、全知全能なる神様を信じて…、「その神様が私たちと一緒に居てくださっている！神が、すべてのことを働かせて、益としてくださる…」**ということを知っているが、様々な困難や苦しみが襲ってきた時に、**真の神であり、救い主であられるイエス様のことを見上げようとはしないで、問題ばかりを見て…、不安になったり、恐怖におののいたりするじゃないですか！**そうでしょうか？

ここ 52 節のみことばが教えてくれているのは、当時の弟子たちの信仰が、まだ薄かったということです。しかも、彼ら弟子たちは、あの 5000 人の給食という奇蹟を目の当たりにしても、まだ、イエス様のことを十分に信じ信頼することができなかったのです。…一体、どうしてでしょう？このみことばは、こう教えてくれています、それは、**彼らの『心が堅く閉じていたから』**だ！って…。

ここで、「堅く閉じる…」と表現されてあるところには、「石のように硬くする、たこにする、無感覚にする、鈍くする、頑固にする…」といったような単語(πυρω)が使われています。要は、神様の側ではなくて、私たちの頑固さや鈍さが問題だと言うのです…。

それと、今日のみことばの 50 節で、イエス様は、『わたしだ。恐れることはない…』とおっしゃっておられますが、実は、ここで、イエス様がおっしゃられた『**わたしだ！**』という表現は、旧約時代、天の神様が、**出エジプト記 3:14 で、あのモーセに対しておっしゃられた、『わたしは、わたしはある』**という者である。…』とい

うのと、非常によく似た表現です。…ひょっとしたら、イエス様は、こういった表現でも、弟子たちに対して、「わたしこそ神である！」ということをおっしゃりたかったのかも知れません…。

ねえ、皆さん…。私たちクリスチャンには、こんなイエス様が、今もそばに居て…、私たちのために、とりなしの祈りをしてくださっているのです(ヘブル 7:25)。私たちの神であり、また、救い主でもあられるイエスキリストは、間違いなく、私たちに必要な助けを与えてくださいます。だって、神様のお言葉である聖書は、そう教え…、また、そう約束してくれているでしょ？…果たして、神様が約束されたことで、それが実現されなかったことってあります？

悲しいのは、せっかく、天の神様が、素晴らしい約束をして…、私たち人類の歴史を通して、数々の預言なども成就してくださっているのに、私たちの側で、「いいや！私は、神様のことを信頼しない！」と言って…、神様の助けを求めず、神様のみことばにも従わないで、自分自身の力や自分たちで考えた方法で、やってしまおうとすることです。…今回のみことばで、イエス様は、弟子たちに対して、「あなた方は、どんな時でも、わたしを信じて、わたしに従おうとしているか？」そういったことを問うておられるのではないのでしょうか？先週学んだ、5000 人の給食と、今日学んだ、湖の上を歩かれたイエス様…、いえ、それだけではありません。クリスチャンの皆さん…、あなたが信じ仕えておられる神様は、たった6日間で、この宇宙のすべてを創造された造り主なる神様じゃありません？あなたが信じたイエス様は、私たちを罪と、その裁きから救うために、あなたの身代わりになって、あの十字架にまでかかって…、そうして、約束通り、3日目によみがえってくださった神様じゃないですか！そうでしょ！

なのに、あなたは、この神様に対して、心を開こうとはしない…。この神様のみこころに従おうとはされないのでしょうか？この神様が、「大丈夫だ！わたしには出来る！わたしがあなたを助ける！」とおっしゃっておられるのに、あなたの方が「無理です…」とおっしゃっていないのでしょうか？

Ⅲ・私たちが、神のメッセンジャー となっていく！(53-56 節)

最後に、3つ目のポイントを見ていきましょう。**イエス様が、この時、12 弟子たちに期待しておられたことは、やはり、先週と同じで…、彼らが神の“メッセンジャー”となっていく！**ということだったはずですが、そういったことのために、イエス様は、弟子たちに様々なことを経験させて、彼らのことを訓練して、様々なことを教えてくださったはずであります。最後に、そういったことを確認していくために、どうぞ、今日のみことばの 53-56 節をご覧ください。

53 彼らは湖を渡って、ゲネサレの地に着き、舟をつないだ。

54 そして、彼らが舟から上がると、人々はすぐにイエスだと気がついて、

55 そのあたりをくまなく走り回り、イエスがおられると聞いた場所へ、病人を床に載せて運んで来た。

56 イエスが入って行かれると、村でも町でも部落でも、人々は病人たちを広場に寝かせ、そして、せめて、イエスの着物の端にでもさわらせてくださるようにと願った。そして、さわった人々はみな、いやされた。

●当時の者たちが、イエス様に 期待 していたこととは？

まずは、今読んだみことばから、この当時の群衆たちが、イエス様に“期待”していたことを、皆さんと一緒に確認していきましょう。さて…、この時、大勢の群衆は、イエス様に、**どんなことを期待していたと思います？**⇒もう、このみことばの後半部分を読んでくださったら分かってくださいますよね？彼らは皆、自分たちの病が癒されること“だけ”を願っていたのです。…そうじゃありません？

先週に学んだように、もしも、大勢の群衆たちが、イエス様に、神様の話や、あるいは、神の国の話、あるいは、救いについて尋ねていたら、まず間違いなく、イエス様は喜んで、様々なことを教えてくださいました。ちょっと、先週も引用したルカ 9:11 を紹介させていただきます。そのみことばは、先週に学んだみことばの平行記事ですが、そこには、こう記されています。『ところが、多くの群衆がこれを知って、ついて来た。それで、イエスは喜んで彼らを迎え、神の国のことを話し、また、いやしの必要な人たちをいやしになった。』って…。皆さん、ここで教えられてあるイエス様…、つまり、喜んで、群衆たちを迎えて、神の国のことを話されたイエス様と、今日のみことばで紹介されてあるイエス様…、つまり、群衆たちのことを早々に解散させたり、また、今日のみことばの最後でも、積極的に、病人たちのことを癒されるのではなくて、当時、彼らは、イエス様の着物の端に触れて、それで癒されたわけでしょう？…つまり、この時のイエス様は、積極的に(≒進んで)病を癒してくださいましたように見えませんが…、何か、少し違うと言うか…、「温度差」のようなものを感じませんか？ひょっとして、この時のイエス様は、何か嫌味が悪かったのでしょうか？

⇒いいえ。もちろん、そうではありません！イエス様は、大勢の者たちがやって来る…、その時の動機や目的をご存知であったのです。残念ながら、この当時、大勢の者たちの関心は、この世のことだけ…、自分のことだけでした…。人々がそんなだから、今日のみことばの最初でも、イエス様は、そこに集まっておられた群衆たちを解散させられたのです。…だって、そこに集まっていた者たちは皆、イエス様のことを、単なる政治的な指導者…、あるいは、神の奇蹟をもって自分たちの食べ物を与えてくださるようなお方程度にしか思っていなかったからです。…しかし、イエス様は、そんなことのために、わざわざ、この世へ下ってきてくださったのではありません…。そうでしょ！

●それに対して、イエス様が私たちに 期待 しておられること

確かに、イエス様は、この当時、一時的に、彼らの空腹を満たしてくださいましたし…、多くの病を癒したり、悪霊たちを追い出したりしてくださいました。しかし、何度も言いますように、それらは皆、イエス様からすると、あくまでも、2番目3番目の優先順位であって…、今日学んでいるように、弟子たちの訓練や、あるいは、病で苦しんでいる者たちを憐れむ気持ちからであったり…、あるいは、このイエス様こそが真の神であられ、イエス様こそ真理であられる！という証しであります。

つまり、イエス様にとって、癒しや様々な奇蹟…、それを聖書では、多くの場合、『しるし』と表現しますけれども、そういったものは、あくまでも、イエス様にとっては、真の目的では無かったのです。だから、イエス様は、癒しや奇蹟などを、積極的には行なわれなかったのです。

ですから、今の時代、私たちが、そういった奇蹟や癒しなどを行なえなくても全く問題ありません。…と言うよりも、それこそが自然であり、それこそが神のみこころなのです。今、私たちににとって重要なのは、まずは、私たちが、しっかりと、真の神であり、唯一の救い主であられるイエス・キリストを信じ従っていく決心をすることです。

だから、ヘブル 11:6 のみことばは、こう教えますでしょ？『信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならぬのです。』って…。多くの場合は、ここのみことばの前半だけを紹介されることが多いですが、今日のところは、特に、後半部分に注目してみてください。

ここのみことばは、この聖書が教えてくれている「本物の信仰」について教えてくれています。果たして、皆さんの信仰は、神様が私たちの信仰に応えてくださるような御方でしょうか？…それとも、この神様は、私たちのことを、将来、私たちが死んだ時、地獄へ行くことから救ってくださっても…、それ以外は、何もできないような御方でしょうか？

<励ましの言葉>

いいえ。この聖書のみことばが教えてくれている真の神様は、そんな中途半端な神様ではありません。真の神であられるイエス様には、何一つ不可能はありません。だから、この地上で、ただの1度も罪を犯されなかったし、サタンの誘惑にも勝利されたし、あの十字架の死後、約束通り、3日目によみがえることがお出来になったのです。イエス様こそは、私たちのことを、悪魔のしがらみから救い出すことがお出来になる唯一のお方です。

私たちが様々な問題や試練を経験する時、それらは、私たちの信仰が強まるチャンスであり…、神様の栄光…、神様の素晴らしさを現わすチャンスであります。天の神様は、どんな時にも、神様への信頼を失わず、勇気をもって、神様に従い続ける者たちのことを喜び…、また、用いてくださいます。

その逆に、「もうダメだ！私にはできない…」というような者のことを、神様は用いてくださりません。果たして、あなたはいかがでしょう？神様に対して、「もうムリです！できっこありません！もう、どうでも良いです…」というような、否定的なおっしゃってはおられません？私たちが信じ仕えている真の神様は、不可能を可能に変えることのできる御方です。どうぞ、この神様を信じ…、全知全能なる、この神様のことを証しする者として、ますます、歩んでいけるよう、お祈りしましょう。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。